



『地獄 極楽どこにある 東に在らず 西に無し
来た道探せ みんな身 あり』

お盆が近付くとご先祖様のことをどなたも偲びますが、あの世のことなどを何となく想像される方も少なくないようです。果たして地獄や極楽ってどんなところなのでしょう、どこにあるのでしょうか。上の言葉は東西南北をうまいこと取り込んだだけでなく、絶妙に言い得た道歌なのです。

博多の仙厓和尚さんのお話を二題ご紹介しましょう。

仙厓さんのお寺のそばに鳥飼八幡宮があり、その神主さんが仙厓さんを訪ねてよもやま話をしていました。その中で「和尚さん、極楽というのはいったいどこにあるのでしょうかね？」すると仙厓さんは「そりゃ、あなた方が毎日拝んでいらっしゃる高天原（たかまがはら）にあるでしょうよ。」「ほう、それならば地獄はどこに？」「地獄は恐らくそのとなりにあるんじゃないだろう」つまり仙厓さんは地獄も極楽も、泣き笑いや喧嘩と仲直り同様に、いつもとなり合わせだと言いたかったようです。

またある日、仙厓さんのところにある若いお坊さんが禅問答にやってきました。「極楽とはいったいどこにあるとお思いかあ！」それを聞いた仙厓さんは横になって気持ちよさそうに寝入ってしまいました。これが極楽じゃというように。するとその僧は「けしからん、なんたる無礼！！」とたいそう腹を立てて部屋を出て行こうとしました。そこで仙厓さんはむくっと起き上がって「そこじゃそこじゃ、あんたのその心が地獄じゃわい。」と、すかさず示しました。我が身を振り返れば地獄も極楽も隣り合わせで、どちらも一つの心からひょいひょいと飛び出して来るものなのですね。